

2016 南ユタ大学短期留学プログラム 報告書

北海道教育大学 函館校 国際協働グループ
1年 熊谷 有美香

平成28年8月31日～9月25日の約三週間、アメリカ合衆国ユタ州のシーダーシティにある、南ユタ大学で短期留学プログラムに参加してきました。今回のプログラムでは1年生が私一人しかおらず、最初はとても緊張してこのプログラムに望みました。

新千歳国際空港から韓国の仁川国際空港へ行き、そこから乗り継いでアメリカのマッカラン空港まで計14時間ほどのフライトでした。マッカランの税関を抜けて一安心かと思いきや、税関に止められてしまって焦りました。ビザ関係で問題が起こって一時止められましたが、無事に通ることができたので安心しました。マッカランには、大学の先生が迎えに来てくれていて、そこからさらに5時間のドライブが始まりました。シーダーシティに着いたのは夜中の23時でホームスティの家族が迎えに来ていました。初日は、緊張とフライト疲れですぐ寝てしまいました。

◆授業

ユタでの授業はプレゼンが主体の授業が多かったです。小学校で自国の文化を伝えるためにプレゼンをしたり、教育学部の方に様々な職業の収入の差をプレゼンしたりしました。英語で自分が伝えたいことを話すのはとても難しいことでした。さらに、ボディランゲージを加えてやるのは、あまり積極的ではない私にとって新鮮なことでした。プレゼンをアメリカの人の前でやることによって、自信と英語力が身につきました。午後は韓国から来ていた留学生の方と英語でのディスカッションをやりました。韓国の生徒は英語も上手で私たちにわかりやすく話してくれました。このディスカッションでは積極性とコミュニケーション力を学ぶことができました。さらに、学校の行事などにも参加して、ユタの学生たちとたくさん交流することができました。

◆ホームスティ先

ホームスティ先では、韓国の留学生とサウジアラビアの留学生がいて、多国籍家族のような感じでした。ホストファミリーはとても優しい方で、週末には様々な場所へ連れて行ってもらい、家族総出のパーティなどにも参加させてくれてとても楽しい毎日でした。わたしは、英語がほとんど話せなくて、身振り手振りを交えながら必死にホストファミリーに気持ちを伝えました。相手も、

私の話を何回も聞いてくれてとても優しい家族でした。このとき、伝えようと思えば、伝わることを知りました。韓国の留学生は日本語が話せて、少し韓国語なども教えてもらいました。

◆生活

アメリカでも生活は、想像していたよりも過酷ではありませんでした。気候は朝と夜がとても寒く、日中がとても暑いという温度差の激しい日が続いていました。暑いものだと思い込んで夏服しか持ってきていなかった私は、学校でパーカーを買って寒さをしのいでいました。



中国・韓国・日本の留学生たち
みんなでブライスキャニオンに
行ったときに撮った記念写真

最初の週の休みに、韓国と中国の留学生たちと共にブライスキャニオンへ行きました。みんなでおそろいのTシャツを着て、ブライスキャニオンを歩きました。とても壮大でアメリカにいることを改めて知ることができました。最後には、記念写真を撮り、仲を深めることができました。

休日は、韓国の留学生たちとメインストリートなどへ行きご飯を食べ、買い物をして交流を深めました。ホストファミリーには、アメリカのパレードやロデオにつれていてもらい様々なアメリカを体験させてもらいました。

◆宗教

宗教はモルモン教が主流です。食事前にお祈りをし、日曜日に教会へ行ってお祈りや、聖書の勉強などをしていました。私がホームステイしていたお家は、あまり厳しくなかったのが困ることはありませんでした。私は日本人だから仏教という感覚はなかったのが、宗教を大切にしているところが素晴らしいと思いました。

◆その他

今回、1年生が一人ということで、心細かったのですが先輩たちやアメリカの学生さん先生の皆さんに支えられて、無事にプログラムを終えることができました。とても感謝しています。わたしは、英語があまりしゃべることができ

ませんが、この三週間を乗り切ることができました。そのおかげで、耳が少しではありますが、英語になれて日常的な英語は聞き取れるようになりました。そして、自信もつきました。間違えたら恥ずかしいではなく、間違えても何度も英語を伝える努力を続けたおかげです。日本で英語を勉強することも大事ですが、本場の英語を聞いて自分の力で伝えるということも大事だと思いました。



南ユタ大学での最後の記念写真